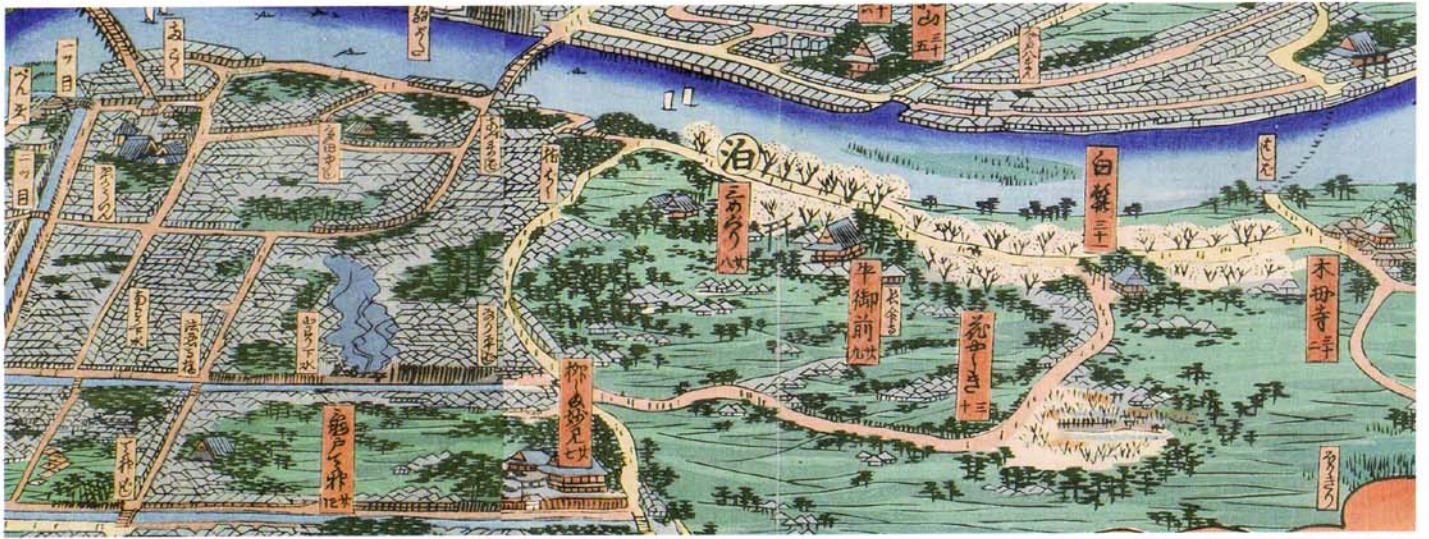


# 古地図でみる江戸時代のすみだ

すみだ郷土文化資料館 専門員 青木俊郎



「江戸名所一覽双六」(部分)

## 1. 江戸図の歴史

最初に江戸図における墨田区域について述べたいと思います。「長祿江戸図」と呼ばれる絵図が今に伝わっています。これは長祿年間(一四五七〜六〇)の江戸を描いたものとも言われていますが確かではありません。ここには「須田村」や「牛嶋」などの地名が見えます。その後の江戸を描いた「武州豊島郡江戸庄図」や「新添江戸之図」では、墨田区域は「牛島新田」などの地名が絵図の隅に小さく描かれるだけです。墨田区域が江戸図中で大きく描かれてくるのは明暦の大火以後です。

明暦の大火は明暦三年(一六五七)一月十八・十九日に発生し、江戸中で十万人余の被害者を出しました。大火後、江戸城付近の大名屋敷・寺社が郊外へ移転することとなり、移転先の土地として本所が開拓されていきます。大火後に刊行された「新板武州江戸之図」(万治四〜寛文四年(一六六一〜六四)刊)などには、本所地域が地図中にしっかりと描かれています。

## 2. 「江戸名所一覽双六」

享和三年(一八〇三)、浮世絵師・鯉形憲齋が「江戸名所之絵」という画期的な図を描きます。この図は、江戸を隅田川東岸の上空から西方へ向かって描いた鳥瞰図です。これはのちに多くの模倣図が出回るほど流行しま

した。この「江戸名所之絵」を模倣したものが、「江戸名所一覽双六」です。

この図では、日本橋をふりだしとあがりにして江戸中を廻る双六形式になっています。隅田川の東岸、現在の墨田区域部分を見てみますと、画面右手から木母寺、白鬚神社、百花園、牛嶋神社、三囲神社、吾妻橋、柳島妙見、両国橋、回向院などが描かれています。

## 3. 古地図で名所をたどる

ここでは、墨田区域内の名所(回向院と木母寺)を尾張屋板の切絵図でたどります。

回向院の歴史は明暦の大火後に始まります。大火の犠牲者を牛島新田(現・両国付近)に埋葬したことをきっかけに、回向院が建立されました。回向院では諸国の仏像・霊宝などを公開する出開帳がおこなわれ、多くの参拝者で賑わいました。また、天明年間(一七八一〜九)以降、毎年境内で勸進相撲が行われました。



回向院付近(「本所絵図」)



木母寺付近(「隅田川向嶋絵図」)

木母寺の開基は貞元元年(九七六)とされています。もとは梅若寺と号していたといい、のちに近衛信尹によって「木母寺」と命名されました。隅田川畔で命を落とした梅若丸を弔う塚が起源とされます。梅若丸の命日である旧暦三月十五日には梅若忌が行われ、江戸中から多くの人が訪れました。また、梅若丸の伝説は、歌舞伎・浄瑠璃や文学・民俗行事など、さまざまな分野に影響を与えました。

### 【主要参考文献】

- 飯田龍一・俵元昭『江戸図の歴史 築地書館、一九八八年』
- 「すみだの史跡文化財めぐり(改訂版)」墨田区教育委員会生涯学習課、一九九二年
- 小沢弘『都市図の系譜と江戸』吉川弘文館、二〇〇二年
- 俵元昭『江戸の地図屋さん』吉川弘文館、二〇〇三年
- 『梅若伝説と幻の町・隅田宿』すみだ郷土文化資料館編・発行、二〇〇八年